

事業事業評価

平成 31 年度

担当課	農林水産課
-----	-------

基本事項	事業事業名	長崎県家畜導入事業					整理番号	1403	
	根拠法令等	島原市農林水産業振興事業補助金交付要綱、長崎県家畜導入事業実施要項					実施を義務付ける規定	○あり ●なし	
	関連する市勢振興計画の基本計画	章 第 5 章 「農漁商観」が融合した活力ある産業をつくる	予算科目	6 款 1 項 4 目	継続	新規			
		節 第 1 節 農林業の振興	事業区分	助成・育成					
事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	県南地域の子牛市場の活性化及び「長崎和牛」のブランド確立を図る。					計画期間	始期	平成 25 年度から
							終期	平成	年度まで
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	「長崎和牛」の生産振興対策として、肉用牛の生産頭数を増加させるため、優良な繁殖雌牛の計画的な導入により農家の生産基盤を確立し、経営の安定を図る。							
	目的達成のための 具体的手段・方法	農協等が繁殖雌牛の購入又は融資により、肉用繁殖雌牛群の整備及び繁殖に意欲を有する者に対し、一定期間の貸付・営農指導を行った後、その者に譲渡する場合、その経費の一部を助成する。 優良雄牛導入・一般導入タイプにつき、導入家畜1頭あたり37,800円の市補助金を支出する。							
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名 称 等 (内 容)		単位	29 年度	30 年度	31 年度		
		①肉用牛繁殖(黒毛和種)12ヶ月未満の頭数	目標	頭	540	610	635		
			実績	頭	604	664			
			達成率	%	112%	109%	0%		
	②	目標							
		実績							
達成率		%							
活動指標 (目的達成のために 行った活動実績)	①肉用牛の導入予定の頭数 (H29実績 増頭タイプ 黒毛和種 育成雌牛 70頭) (H30実績 増頭タイプ 黒毛和種 25頭)		目標	頭	70	72	20		
			実績	頭	70	25			
	②	目標							
		実績							
事業費等の推移	年度		27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度	2 年度	
	区分		実績値	実績値	実績値	実績値	予 算	計 画	
	① 直接事業費(千円)		7,768	9,672	9,646	3,445	2,756	9,646	
	財源内訳	国 県 支 出 金	5,500	6,950	7,000	2,500	2,000	7000	
		地 方 債							
		そ の 他							
		一 般 財 源	2,268	2,722	2,646	945	756	2,646	
	②従事職員給与費 b1×b2		223	225	226	230	226	226	
	推 移	従事職員数(人) b1	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	
		職員平均人件費 b2	7,438	7,484	7,546	7,663	7,530	7,530	
事業費合計 ① + ②		7,991	9,897	9,872	3,675	2,982	9,872		

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている 長崎和牛のブランド化を下支えする肉用牛を確保させる事業として必要である。	判定 A
	②事業を民間（NPO、市民、ボランティア等）に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 家畜導入は農協・農家でやっている。	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 肉用牛の導入価格が近年高騰していることもあり、県や市の支援がないと、優良な肉用牛の導入が進まない現状である。	A
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか （成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成）	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 新たに導入できる牛の頭数を前年度に見込み、予算要求を行っており、全額執行を行うよう取り組まれている。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 牛の販売数や牛舎の広さの制限を受けるため、最大限の取り組みであり、これ以上の効果向上の余地はない。	A
	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか （活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成）	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 肉用牛の導入価格が近年高騰していることもあり、県や市の支援により、優良な肉用牛の導入が進み、経営の安定に繋がっているものと考えている。	A
効率性	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 業務量は最小となっていると考えている。	A
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある 補助事業であり、事務的な改善の余地はない。	A
	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 前年度に農協を通し、全畜産農家に予定をきいている。	A
⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たにに取り組む余地がないか A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要			A
判定評点平均（3点満点） A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算			3.00

◎ 総合自己評価（所管部署）	
評価結果	◎ A 継続実施（特段の見直しは行わない） ○ B 改善・見直しを行う ○ B1 事業規模の拡充 ○ B2 事業規模の縮小 ○ B3 事業内容の改善・見直し ○ B4 その他の見直し ○ C 休止（隔年実施などへの変更） ○ D 廃止（終期の設定等を含む）
判断理由	長崎和牛ブランドの頭数保持のため必要であり、減少しないための最小限の補助額と考えている。
今後の課題及び改善策、見直しの状況	（実施上の課題等）当面継続したい。 ●（H30に減少した理由）本事業を利用する農家が限られており（H29:5戸⇒H30:2戸⇒H31:3戸）、その農家の牛舎が満杯になったことが一つの原因である。現状は古い牛を更新している状況。 ●（補助の内訳）補助は県単独で、増頭タイプは100千円/頭であり、市の上乗せ額は半島3市ともに37,800円/頭。 ●12ヶ月未満の頭数は、補助対象以外も含む（補助分だけの統計なし）。 ●頭数・農家数の資料を添付しました。
総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載してください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し（改革・改善、終期の設定など）を行っている場合は、その内容についても記載してください。	

【2次評価】

総合判定	A 継続実施（特段の見直しは行わない）
備考	「長崎和牛」のブランド確立及び農家の経営安定のためには優良牛の導入が不可欠であり、引き続き県や関係機関などが協力して事業を展開していく必要がある。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況		
① ☒ 事業費縮減（事業の見直し）	③ ☐ 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減
② ☐ 民間委託等によるコストの縮減	④ ☐ 事務の効率化による現状維持（事業内容の拡充）	-1,378（千円）